



名古屋大学高等教育研究センター・ニュースレター

CONTENTS

Keynote

就任のご挨拶：学習・成長する大学と評価企画

高等教育研究センター助教授・評価企画室副室長 **栗本 英和**

2

Activities

「特色ある大学教育支援プログラム」の取組み

3

『成長するティップス先生』バージョン 1.2 になりました

6

Seminars

高等教育研究センター主催セミナー（2004年9月～12月）

7

Staff

高等教育研究センター スタッフ

8

就任のご挨拶：

学習・成長する大学と評価企画

栗本 英和（高等教育研究センター助教授・評価企画室副室長）

2004年9月1日に、「大学の戦略プランニングと大学組織研究の方法論の調査・研究」ならびに「大学の経営戦略の構築に必要な各種評価情報の収集・分析」を職務とする、高等教育研究センター助教授ならびに評価情報分析室室員に着任しました。着任後1ヶ月で、後者は「評価企画室」へと拡充・改組され、それに伴い副室長を拝命し、データ分析からあるべき仕組みを構想し体系化していく学術的機能と、それを具現化し実践・点検する業務的機能の双方を同時に担うことになりました。法人化後の国立大学を取巻く環境は大きく変わりつつあり、昼夜、責務を遂行する日々が続いています。

現在、中期目標・中期計画による運用体制の構築支援、学内外で必要とされる評価システムの構築支援、この2つの活動を通じた学習・成長する大学のシステム創りに従事しています。とくに、法人化にあたり、先行する独立行政法人に倣って、目標による管理が導入されました。この手法は、あるべき姿に向かって全体と部分が対話をしながら、環境変化に適合する仕組みへ変えて行こうとするときは、参画意識を昂揚させ、組織力による大きな成果に繋がります。しかしながら、対話のない組織環境では、目標管理の、統治の側面のみが強化されやすく、ノルマ主義や結果主義に陥ることがかねてより指摘されています。本来、自主自律を大切にする大学人には備わっている考え方ですが、教職員の集合体である法人組織に対して、Plan-Do-Check-Act（PDCA）の螺旋型成長が求められている点に特徴があります。

PDCAサイクルによる質の向上は、専門であるプロセスシステムや情報マネジメントの根底にあるフィードバックの概念そのものであり、多くの

分野に共通する概念であると考えています。なぜなら、質の向上は製品だけでなく、環境、労務、衛生、安全、財務などの視点による組織活動の質的改善へと展開され、企業、労働組合、行政、医療、教育、非営利団体など業態や業種を超えた共通理念のもとで、組織の成熟度を高める動きになっています。いま、財務、顧客、業務プロセス、学習と成長の4つの視点に基づいたバランスド・スコアカードによる戦略マップ策定と、目標を實現する重要成功要因抽出から、評価指標及び目標値設定、行動計画に至る戦略的プランニング策定による経営品質研究部会活動に参画しています。事例対象となる組織代表者、幹部候補、ITコンサルタント、経営コンサルタント、システム思考の大学人による協働作業から、多元的で有機的な実践共同体（Community of Practices）が形成され、組織開発プロセスにおけるCOPsの重要性を再認識しました。学内では高等教育研究センター、評価企画室のほか、大学院情報科学研究科、情報文化学部、教養教育院統括部を併せると五足の草鞋を履いており、現場に立脚した横断的組織体におけるCOPsやシステム思考の必要性を感じています。

今後、こうして得た知識と経験を学術へ還元し、高等教育における企画立案や評価分析に関する方法論の開発と発展に寄与したいと思います。関係各位ならびに諸先輩のご助言、ご支援をお願いいたします。

「特色ある大学教育支援プログラム」の取組み

平成16年度「特色ある大学教育支援プログラム」に、名古屋大学高等教育研究センターを中心とした取組みである「教員の自発的な授業改善の促進・支援 授業支援ツールを活用した授業デザイン力の形成」が採択されました。

本取組みでは、従来の一斉型・集団型のFDでは教員の授業に対する意識を刺激することはできても、そこで伝えられた内容を個々の教員が習得し授業改善を実践するにはなお困難があるとの認識から、教員が授業改善を具体的に進めるための支援ツールの開発を行ってきました。開発された支援ツールとしてウェブ版と書籍版の『成長するティップス先生』と『ゴーイングシラバス』があります。この二つの支援ツールに共通する設計思想として「授業デザイン力」があり、これを教員が身につけることで自発的な授業改善を促進・支援することを本取組みでは目的としています（下図）。

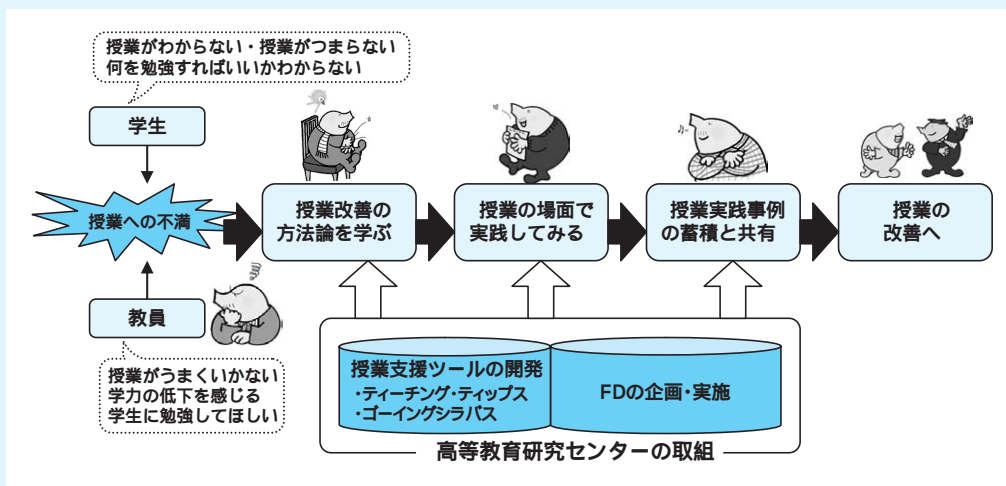
名物教師と呼ばれるような先生の授業では、学生のモチベーションも高く維持され、積極的に課題に取り組み、結果として学生は授業を通じて多くのことを身につけます。しかしながら、多くの教員にとって名物教師と同じような授業をすることは困難です。もとより、授業の成否の要因を名人芸や個人の性格に求めているは、大多数の教員に

とって授業改善の手掛かりすら得られません。

授業デザイン力は、全ての教員に求められる力です。そしてそれは、名人芸ではなく全ての教員が身につけられる力です。このコンセプトは、授業の巧拙や専門知識の多寡が授業成功の大きな要因ではないことを意味します。

それぞれの授業はカリキュラムの中に位置づけられており、その授業で学生に何を身につけてもらうべきかが示されています。一方で、担当する授業を受講しにやって来る学生の学力や学習歴は多様です。授業の担当教員は、この多様な学生をうまく組織しながら、授業を通じてカリキュラムで求められる目標を達成してもらうよう、指導をしなければなりません。

授業デザイン力は、こうしたカリキュラム目標と学生像がスムーズにつながるように、授業全体を見通して設計する力を指します。その中には、授業の目標を適切に設定し、目標への到達を促進する課題を設定し、課題の達成に必要な授業内容を精選して授業計画にまとめ、それにあわせて教材を用意する力などが含まれます。すなわち、シラバスを設計する力は、授業デザイン力を構成する要素の最も重要な部分です。



教員の自発的な授業改善を促進・支援する取組みの全体像

『成長するティップス先生』では、授業デザイン力を下敷きに授業改善のノウハウやヒントを提供しています。また『ゴーイングシラバス』では、シラバス作成を支援し、展開された授業の記録を残す授業ポートフォリオ機能を備えたものであり、これを実際の授業で利用することにより、授業デザイン力が身につくよう工夫されたものです。このような授業支援ツールを活用してもらうことにより、教員の自発的な授業改善を促進・支援することを本取組みでは目指しています。

「特色ある大学教育支援プログラム」の採択をきっかけに本取組みを全学に広く知っていただき、

授業の現場で大いに活用していただきたいと思っています。『成長するティップス先生』、『ゴーイングシラバス』は高等教育研究センターのウェブページから入れます。ご利用ください。

高等教育研究センターの URL

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/>

『成長するティップス先生』の URL

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/tips/>

『ゴーイングシラバス』の URL

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/gs/>

「特色ある大学教育支援プログラム」フォーラムが開催されました

全国 4 会場に参加

平成16年度の「特色ある大学教育支援プログラム」フォーラムが、全国4会場（札幌、東京、京都、福岡）で11月中旬から12月初旬にかけて開催されました。このフォーラムは、今年度の採択校によるポスターセッションを通じて、取組みの幅広い情報提供を意図しています。名古屋大学からは、高等教育研究センターのスタッフが全国の4会場全てのフォーラムに参加し、取組みの積極的な情報提供を行いました。



名古屋大学のブースの様子（札幌会場）

100名を超える方々と意見交換

今年度採択された取組みである「教員の自発的な授業改善の促進・支援」には、各大学の教員・事務職員の方々から関心を持っていただき、盛況のうちにフォーラムを終えることができました。また、その中でのべ100名を超える方々と活発な討論・意見交換を行い、今後の取組みの拡大へ向けた有益な示唆を得ることができました。

『ゴーイングシラバス』に注目集まる

取組みの柱を構成する授業支援ツールに、『成長するティップス先生』と『ゴーイングシラバス』があります。幸いにして、名古屋大学の取組みには早くから注目していただいていたため、多くの方が『成長するティップス先生』については既にご存知でした。その一方で多くの参加者の関心を集めたものが、もう一つの授業支援ツール『ゴーイングシラバス』でした。ここでは、『ゴーイングシラバス』に関してフォーラムにおいて議論された点を紹介したいと思います。



名古屋大学のブースの様子（東京会場）

授業デザインの支援

前掲の通り、『ゴーイングシラバス』は教員の授業デザイン力の向上を支援するものです。このツールの特徴の一つとして、教員が自発的にシラバスを作成して授業改善に取り組めるよう工夫されている点があります。

学生の時間外学習を活発に

また、授業計画とともに提示される授業時間外の学習課題、さらに授業計画に沿って提示される授業記録の機能についても関心が寄せられました。『ゴーイングシラバス』の授業計画欄は、日付ごとの授業時間内の学習活動に加えて、当日の授業までに行う学習活動を提示するフォーマットです。これにより、学生は何をすればよいかかわからないという状態に陥ることなく、継続的に学習に取り組むことができます。もちろん、そのためには教員が、適切な量と内容の課題を設定するデザインを行わなければなりません。また、右端の「授業の記録」欄には、教員からの授業後のコメント、授業で配布した資料のファイル、参考ウェブサイトへのリンク、予習課題用のファイルなどをひとまとめに提示することができます。学生はいつでも授業内容を振り返ることができ、次回の授業に向けた予習・課題に取り組むための手引きになります。こうした『ゴーイングシラバス』の考え方



授業の記録

日付	授業内の学習活動	当日の授業までに行う学習活動	授業の記録
2004/10/06	自己紹介 この授業の進め方 シラバスの説明 メルポルの「教育・学習を導く9つの指針」を紹介		レジュメ 授業設計（教員）-学習支援（教員と職員との協同）-学生支援（職員）という三層構造があります。このうち、職員の領域はもっぱら学生支援（昔の「学生指導」）のみでしたが、最近になって学習支援の重要性が指摘されています。なぜそうなったのでしょうか。なぜ学習支援は大事なのでしょうか。この授業の基本モチーフはここにあります。 前期にやった授業設計と後期の学習支援は、教室の内と外から教育・学習を支援するという点で連続しているのです。
2004/10/13	モジュール1：学生のニーズを知る 基本レクチャー ・学生のニーズを測る方法 ・授業評価アンケートのあり方	次の文献を読んで、前日までに400字前後のコメントをみんなの部屋に書き込んでください。 小笠原正明(2004)『学生による授業評価は使えるか』リクルート「カレッジマネジメント」127号、56-59頁。 河合塾(2003)『「学生による授業評価」事例研究会』19-21、88-92頁	レジュメ 2003年に近田が大阪大学で行った講演ファイルです。授業評価について取り上げています。最後までに。 今日、多くの大学で行われている授業評価

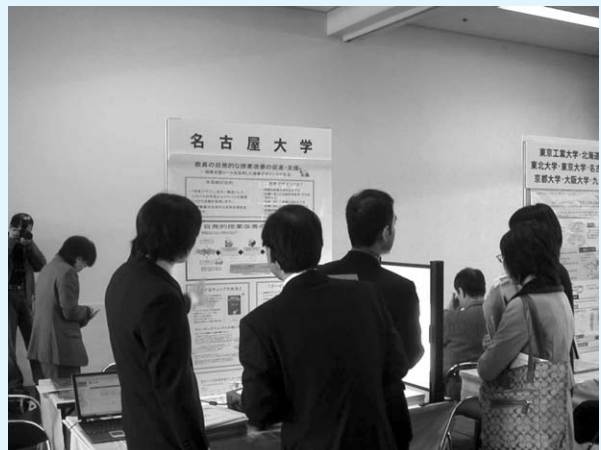
『ゴーイングシラバス』の授業の記録画面

が、フォーラム参加者の関心を集めました。

誰でも使える簡単な操作性

『ゴーイングシラバス』はウェブを活用した授業支援ツールですが、そのすっきりした外観と特別な知識を必要としないシンプルな操作性も、多くの方々に評価されました。

『ゴーイングシラバス』は、無償でソースの配布を行っていることもあり、大学内で組織的に活用してみたいという相談も数多くありました。今回のフォーラムをきっかけに、導入に向けた問い合わせもあり、今後の取組みの広がり注目していただきたいと思います。



熱心な議論の様子（京都会場）

『成長するティップス先生』バージョン 1.2 になりました

2001年12月1日に最終改訂したウェブ版『成長するティップス先生』を3年ぶりに改訂しました。この3年間は成長するティップス先生なのに成長していないぞとお叱りをうけましたが、本年度特色ある大学教育支援プログラムに採択されたことを契機に改訂に動いています。

実はこの3年間も高等教育研究センターでは、ティップスに関わるさまざまなプロジェクトを行ってきました。『成長するティップス先生』で重視した授業デザインをオンライン上で実践できる『ゴーイングシラバス』の改訂もそのひとつです。また、新しい学生、新しい教育環境に対応するための教授法の研究にも着手しました。新しい学生としては、プロフェッショナルスクールを背景に増加する社会人学生があり、こうした社会経験を持った成人学生に対する授業のティップスが求められています。新しい教育環境としては、eラーニングの普及があり、情報通信技術を活用した授業のティップスが求められています。この2つの新しい潮流に対するティップスは、ハンドブックという形で中間成果を公開しています。

今回の改訂はこれまでの成果をもとに、いろいろと追加・修正しています。コラムも新しいものが16個加わりました。また、「みんなの広場」に「学内教職員のサポート」という新しいセクションを加えて、実際に名古屋大学の教員をサポートするサービスも始めました。ぜひ下記のURLを入力してご覧ください。

最後に、今回の改訂はバージョン1.2への改訂です。実はもう少し大きな改訂を含むバージョン2.0の開発も進めています。それはもう少し後で報告させていただきます。

主な改訂ポイント

1. 「みんなの広場」に「学内教職員のサポート」というセクションを追加し、名古屋大学の授業改善をサポートするサービスを開始
2. 新しいコラム16個を追加
3. 授業の基本に2つの節を追加
4. 「みんなの広場」にティップスのフィードバックをとる「アンケート」のセクションを追加
5. これまでの内容で不適切な部分の修正

成長するティップス先生 URL
<http://www.chenagp.ya-u.ac.jp/tips/>



高等教育研究センター主催セミナー

2004年9月～12月

第41回招聘セミナー（2004年9月3日）

「社会人学生のためのケースメソッド教授法：生涯学習論の視点から」

佐野 享子 氏（筑波大学大学研究センター助教授）

第25回客員教授セミナー（2004年10月1日）

「大規模大学でFDを組織化するための方法論」

阿部 和厚 氏（北海道医療大学教授／高等教育研究センター客員教授）

第42回招聘セミナー（2004年10月8日）

「ラーニングテクノロジー活用授業の普及と支援：

帝京大学における取組み」

渡辺 博芳 氏（帝京大学理工学部講師／ラーニングテクノロジー開発室室員）

第43回招聘セミナー（2004年10月19日）

「私立大学の財務の現状」

梅田 守彦 氏（岐阜経済大学経営学部教授）

第44回招聘セミナー（2004年11月19日）

「教養教育の今日的課題：組織とカリキュラム」

寺崎 昌男 氏（学校法人立教学院本部調査役／東京大学・桜美林大学名誉教授）

第45回招聘セミナー（2004年12月3日）

「科研費採択研究課題数による大学の研究活性度について」

野村 浩康 氏（東京電機大学教授／元名古屋大学副総長）

第46回招聘セミナー（2004年12月10日）

「シラバスを核とした学習支援および授業改善システムの提案」

田中 浩朗 氏（福岡教育大学教育学部助教授）

スタッフ (2004年9月～12月)

センター長 黒田 光太郎

専門領域：材料科学工学・工学教育
 電話：052-789-5694
 052-789-3349 (工学研究科)
 メール：kuroda@cshe.nagoya-u.ac.jp

教授 夏目 達也

専門領域：高等教育学・技術・職業教育論
 電話：052-789-5693
 メール：natsume@cshe.nagoya-u.ac.jp

助教授 近田 政博

専門領域：比較高等教育学・初年次教育
 電話：052-789-5692
 メール：chikada@cshe.nagoya-u.ac.jp

助教授 中井 俊樹

専門領域：高等教育マネジメント・大学教授法
 電話：052-789-5385
 メール：nakai@cshe.nagoya-u.ac.jp

助教授 栗本 英和

専門領域：プロセスシステム学・情報マネジメント
 電話：052-789-5925 (評価企画室)
 メール：kurimoto@cshe.nagoya-u.ac.jp

専任講師 鳥居 朋子

専門領域：高等教育カリキュラム論・教育経営学
 電話：052-789-5691
 メール：torii@cshe.nagoya-u.ac.jp

助手 中島 英博

専門領域：教材作成法・教育経済学
 電話：052-789-5384
 メール：nakajima@cshe.nagoya-u.ac.jp

助手 小湊 卓夫

専門領域：大学評価・経済学説史
 電話：052-789-5815
 052-789-5925 (評価企画室)
 メール：kominato@cshe.nagoya-u.ac.jp

助手 青山 佳代

専門領域：大学評価・西洋教育史
 電話：052-789-5814
 052-789-5925 (評価企画室)
 メール：aoyama@cshe.nagoya-u.ac.jp

専門職員 井上 和美

電話：052-789-5696
 メール：inoue@cshe.nagoya-u.ac.jp

2004年度 外国人客員教授

客員教授 キース・クロフォード^(2004年10月～2005年3月)

エッジヒル大学 英国 教授
 専門領域：高等教育カリキュラム論

高等教育研究プロフィール 第10号

名古屋大学高等教育研究センター ニューズレター

2004年12月27日発行

編集委員：黒田光太郎、夏目達也、栗本英和、近田政博、中井俊樹、鳥居朋子、
 中島英博、青山佳代、小湊卓夫(幹事)

発行 名古屋大学高等教育研究センター

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

TEL 052-789-5696(事務室)

FAX 052-789-5695(同上)